

## 7. 鶏脳脊髄炎が関与した産卵低下の一症例

福島県会津家畜保健衛生所

○車田 信洋、大倉 直子



### 【はじめに】

鶏脳脊髄炎（以下AE）は、幼雛に脚麻痺・歩様異常などの神経症状を、採卵鶏に急激な産卵率低下とV字型の回復を引き起こす疾病である。今回、会津地鶏を採卵用として1,600羽飼養する農場で、AEが関与した産卵低下の症例がみられたので、その概要を報告する。

### 【発生経過】

平成27年10月に飼養者から産卵率が急激に低下しているとの連絡があり、その翌日に立入検査を実施した。聞き取り調査では、今まで農場で経験が無いほど産卵率の低下が認められ、産卵率が低下する約2週間前の9月下旬、一部の群に150日齢でAE生ワクチンを投与していた。臨床検査では、鶏や卵に異常は確認されなかった。疫学的状況及び臨床所見から、AEを疑い検査を実施した。

### 【材料と方法】

検体は、ペア血清119検体を用いてELISA法による抗体検査を実施した。また、当該農場の発生と同時期における管内のAE浸潤状況調査を実施した。

### 【検査結果】

すべての鶏群で立入検査時及び約1カ月後の後血清で高い抗体陽性率を示した。立入検査時にすでに抗体陽性率が高かった要因としては、発症してから採材まで日数が経過していたことが考えられた。S/P比については、すべての群の後血清で上昇がみられた。抗体陽性率は立入検査時と後血清ともにほぼ同じ陽性率を示したが、S/P比を比較すると立入検査時よりも後血清で上昇していた。産卵率は5群中4群で22%～54%、平均44%の低下がみられ、産卵率の低下は1週間程度続いたが、その後AEに特徴的なV字型の回復がみられた。管内の浸潤状況調査では、本症例と同時期の管内におけるAEの流行はなかったと推測した。

### 【考察とまとめ】

本症例にAEが関与していたと推察した。AE生ワクチンは群の一部に投与し、排泄されたウイルスを水平感染させることで全体に免疫を広げるという特徴があり、今回のワクチンの投与時期を考慮すると、ワクチン株が農場内に蔓延したため発症し、産卵率が低下した可能性が示唆された。本症例は、飼養管理不足、ワクチンに関する認識不足から生じた事例であり、飼養者に対し飼養衛生管理の徹底を指導した。今後、管内の他の農場に対しても、ワクチンの適正使用に関する注意喚起を実施していく。